

## 小中学生の体力二極化について

—陸上競技全国大会の記録推移から考える—

池田 佑平（生涯スポーツ学科 地域スポーツコース）

指導教員 金森 雅夫

キーワード：陸上競技 小・中学生 体力二極化

### 1. 緒言

ここ数十年、わが国では毎年のように子供の体力低下が指摘され続けている。その反面、競技スポーツの世界では、スポーツ科学の進歩とともに、より高いレベルでスポーツに取り組むことができる環境ができていく。学生スポーツにおいても同じことが言える。運動に取り組むものとそうでないものの差はより大きくなり、体力の二極化が進むのではないだろうか。

そこで本研究では、基本的な走・跳・投の動作と密接に関わっている陸上競技を参考に、現在の小・中学生の体力二極化の動向を、体力テストと陸上競技全国大会の結果の推移調べ、運動実施頻度の高い子どもと低い子どもの体力の動向を研究することを目的とする。

### 2. 研究方法

新体力テストの平成13年度から平成22年度までの記録を収集、グラフ化し、小学生および中学生の全国陸上競技大会の結果の推移と比較する。全日本中学校陸上競技選手権大会と全国小学生陸上競技交流大会の結果は、2000年から2011年までの1位と8位の記録、そして決勝の記録8人の平均値を使用する。中学校ジャベリックスロー、円盤投はジュニアオリンピック陸上競技大会の記録を使用する。

### 3. 結果と考察

新体力テスト、陸上競技全国大会の結果の推移を調べてみて受けた印象は、新体力テストはほぼ横ばいに推移しているのに対して、陸上競

技全国大会の結果の推移は上昇しているというものであった。陸上競技全国大会の結果は、運動実施頻度の高い群のなかでも、さらに高く運動技術の面でも優れた群の体力は上昇傾向にある。

### 4. まとめ

本研究では小・中学生の体力二極化の動向を、体力テストと陸上競技全国大会の記録推移から調べた。結果、陸上競技全国大会の記録推移は上昇傾向にあり、体力テストと比べその上昇傾向は大きいことが分かった。体力向上には、身体活動量の十分な確保とともに専門的な運動技術と指導法の学校教育現場へのフィードバックが効果的ではないかと考える。

#### 参考文献

1) 文部科学省ホームページ

<http://www.mext.go.jp/>

2) 陸マガ記録室（2000年～2010年）

陸上競技マガジン 9月号、10月号  
ベースボール・マガジン社

3) 健康・スポーツ科学分科会編(2010) 子供を元気にするための運動・スポーツ推進体制の整備 健康・スポーツ科学分科会報告集